

第4回伊達市教育振興基本計画策定委員会
(学校教育部会)
会 議 録

伊達市教育委員会

審 議 会 会 議 録

| | | | |
|----------|--|----------|----|
| 会議名称 | 第4回伊達市教育振興基本計画策定委員会 | | |
| 議 題 | (1) 地域総がかりの教育の推進 (2) ふるさと創生教育の推進 (3) 異校種間の連携・接続の推進 (4) 幼児教育の充実 (5) 教職員の資質・能力の向上 (6) その他 | | |
| 開催日時 | 平成29年10月19日 (木) 18時30分～19時53分 | | |
| 場 所 | 市役所第2庁舎2階 会議室1 | | |
| 出席委員 | 池田茂樹 委員、大家利基 委員、小倉 拓 委員、小畑次男 委員 小西朱弓 委員、櫻田琢磨 委員 竹村幸雄 委員、万代 淳 委員 山崎 誠 委員、渡邊源之 委員 (計10名) | | |
| | 所管部課名 | 教育部学校教育課 | |
| 公開・非公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 | 傍聴者の人数 | 0人 |
| | <input type="checkbox"/> 非公開 | 非公開の理由 | |

【会議の概要】

1. 開会 (事務局：企画総務係長)
2. 部会長挨拶 (万代部会長)
3. 議題
 - (1) 地域総がかりの教育の推進
 【資料に基づき事務局から説明】
 【質疑・意見交換】別紙のとおり
 - (2) ふるさと創生教育の推進
 【資料に基づき事務局から説明】
 【質疑・意見交換】別紙のとおり
 - (3) 異校種間の連携・接続の推進
 【資料に基づき事務局から説明】
 【質疑・意見交換】別紙のとおり
 - (4) 幼児教育の充実
 【資料に基づき事務局から説明】
 【質疑・意見交換】別紙のとおり
 - (5) 教職員の資質・能力の向上
 【資料に基づき事務局から説明】
 【質疑・意見交換】別紙のとおり
 - (6) その他
 【質疑・意見交換】別紙のとおり
4. 閉会

開 会 （18時30分）

◎上山企画総務係長

ただいまから、第4回 伊達市教育振興基本計画策定委員会 学校教育部会の会議を開催いたします。さっそく、万代部会長からご挨拶をいただいたのち、会議の進行をお願いいたします。

◎万代部会長

大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。前回の会議では皆様から活発にご意見をいただきまして、すべての議題を終えることができました。残す議題も少なくなってきましたが、今後10年間の教育振興基本計画に寄与できるような活発なご意見をよろしく願います。それでは、本日の議題に入る前に、前回の部会での内容を確認したいと思いますので、事務局から願います。

◎三浦学校教育課長

第3回部会で取り上げた「(1) 高等学校教育の推進」ですが、これについては、現在の市内中学生の卒業後の進学先については、市内と市外がおおむね半分となっている状況のほか、現在、道教委が公表している「公立高等学校配置計画案」においては、伊達高校と伊達緑丘高校について、平成33～36年度の見通しとして「伊達市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた定員調整の検討が必要」とされていることなど、現状を中心に説明いたしました。

また、市議会において、伊達市立の中等教育学校を設置することについて質問があり、これに対しては「調査研究する」という答弁をしたものの、その後、経費のほか、学校の運営などを含めて考えると、中等教育学校での教育効果は見込めるものの、経費や運営面での課題も相当見込まれるということをお説明いたしました。

伊達市立の高等学校がないことから、この議題のなかでは、高校生以上の学校教育という観点から、幅広いご意見をいただきたいということをお願いし、ご意見やご質問をいただき、これらを今後まとめる提言では並列的に並べたいということをお申し上げたところで

す。これに対して、現在の伊達高校と伊達緑丘高校については、間口が少なくても引き続き2校存続しながら、タイプの異なる高校であってほしい、生徒の希望する進路を実現できる学校であってほしい、総合学科や単位制の導入によって、配置される教職員数もそれなりの人数が見込めるといったご意見がありました。学力という視点からみると、市内には進学校がなく寂しいというご意見などがありました。

また、ご質問としては、市として返済のいらぬ、給付型の奨学金制度を創設する考えはないのかというご質問がありましたが、これに対しては、保護者のニーズは確実にあると思われるため、今後、伊達市の高校卒業生の大学進学状況なども調査したうえで、財源や保護者ニーズも含めて総合的に検討してみたいということをお答えさせていただきました。

◎永井指導室参事

「(2) 環境教育の充実」については、次期計画においては、全校で各学年の目標や教科などとの関連を示した全体計画を作成することを目標として設定したいということ、成果指標については、環境教育に関しては設定することは馴染まないため設定はしないことについて、了承をいただきました。

「(3) 安全・防災教育の充実」については、次期計画においても地域社会全体で学校安

全に取り組むことを盛り込んだうえで、全校で自然災害を想定した避難訓練を実施することを目標として設定し、こちらについても成果指標については馴染まないため設定はしない、ということについて了承を頂きました。

◎代田給食センター所長

「(4) 食育・健康教育の推進」については、食育は非常にすそ野の広い分野であり、教育委員会や学校の取り組みだけで効果を上げることは困難な分野であります。

学校教育における食育としては、まず給食指導が挙げられますが、だて歴史の杜食育センターが平成30年1月から供用開始されることで、現在の老朽化した調理場が抱えている施設としての課題は解消されることとなります。そのため、今後は新施設を有効に活用することはもとより、地場産食材の活用や栄養教諭の派遣事業を継続的に実施するなど、教育委員会や各校においては、児童・生徒はもとより各家庭に対する啓発活動を継続することで、望ましい食習慣を身に付けさせる取り組みを継続することが必要となるという内容で協議させていただきました。

◎永井指導室参事

「(5) 道徳教育の充実」については、教科化となることから、道徳教育の充実についてすべての学校で取り組んでいくことを目標として設定し、また、こちらについても成果指標は馴染まないため設定しないことについて了承を頂きました。

また、教科化に伴い評価に関するご意見も頂戴いたしましたので、こちらについては部会における意見を踏まえ、提言において整理していく考えであります。

「(6) 生徒指導・教育相談の充実」については、引き続き子どもの悩みに共感しながらトラブルなどの早期発見・早期対応のための教育相談を充実させること、また、いじめや不登校がなくなることを目標として設定し、成果指標については、伊達市の不登校率が全国の不登校率を下回ることを成果指標とすることについて、了承を頂きました。

また、不登校サポートハウス「フェニックス」については、ボランティアスタッフの高齢化等、環境の充実の必要性などについてご意見を頂きました。今後、今回の議論を踏まえ、提言において整理してまいりたいと考えております。

「(7) 体力・運動能力の向上」については、全国・体力運動能力調査や伊達市体力テストの結果をもとに、引き続き学習指導の工夫・改善に努め、伊達市の体力合計点が全国の体力合計点を上回ることを目標として設定し、成果指標についても、同様に毎年度の結果が全国平均を上回ることをとする旨、了承を頂きました。以上、前回の会議内容の確認になります。

◎万代部会長

ただいま事務局から前回の会議の内容確認がありましたが、よろしいでしょうか。

◎小倉委員

「(1) 高等学校教育等の推進」、「(6) 生徒指導・教育相談の充実について」意見を申し上げます。

まず、「(1) 高等学校教育等の推進」についてですが、室蘭に進学するような子はやはり高い学力を求めて、室蘭へ進学すると思います。伊達市内にそのような子をとどめるには、伊達の2校を統合することで、クラス数を増やし、特進クラスを新設することで、室蘭へ進学するような子を伊達にとどめることができるのではないかと思います。また、特進クラスだけではなく、スポーツの強いクラスを設けるなどクラスごとに特色を出してゆけば、さまざまな生徒があつまり、生徒の受け皿の枠が広がるのではないかと思います。

◎万代部会長

高等学校教育についてご意見がありました、何かご意見がありましたらお願いいたします。

◎山崎委員

道立高校の校長としては、伊達に2校あることが望ましいと思いますが、将来的に人口減少により、2つの高校の存続がむずかしくなっていけば、小倉委員のご意見のように1校に統合をして、クラスごとに特色をだしていく形もよいかと思います。

◎万代部会長

道教委が高校の配置計画を決定してしまえば、今までとは別の科を設けることや単位制にするというようなシステムの変更については自由にできないため、道教委の計画が決定される前に市教委としてどういった学校にしていきたいのか要望を出していくことが重要となってきます。

仮に伊達の高校に学力の高い学科を設けたとしたら、生徒たちはこの学科を選択するのかということが問題となりますが、おそらく、生徒たちはこの学科を選択しないと思われる。生徒たちの親の意識として、室蘭栄高校という長年のブランド力があること、中学生の進学は先生方の進路指導次第であるということが大きな点となっております。そのため、このような学科を設けることを考えるなら進路指導のあり方も考えていかなければなりません。

ほかにご意見・ご質問はありませんか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、小倉委員「(6) 生徒指導・教育相談の充実について」お願いいたします

◎小倉委員

フェニックスについて、今後も継続してもらうために、任意団体ではなく、法人格を取得してもらい事業を継続してもらおうということを計画に盛り込むのはどうでしょうか。

◎三浦学校教育課長

市教委として不登校児童対策の予算を持ち、不登校児童対策事業として行っているところではありますが、あくまでもフェニックスはボランティアとして活動されているということ、また、主体が市教委にないということから、フェニックスを法人化するという内容で計画に盛り込むことはむずかしいかと思われます。不登校児童対策は継続的に必要なものではありますので、ボランティアがなくなったとしても継続するような仕組みを考えることは必要かと思えます。

◎万代部会長

この件について、よろしいでしょうか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、事前に提示されている議題に沿って進めたいと思います。議題「(1) 地域総がかりの教育の推進」について、事務局から説明してください。

◎指導室吉田主査

昨年、小学校3校、中学校2校において導入いたしましたコミュニティ・スクールにつきまして、本年6月1日までに市内の全ての小中学校において導入いたしました。

これにより、地域の皆様が各校の運営協議会に参加し、学校運営に参画していただくことにより、地域に開かれた学校づくりが進んでいくものと考えております。また、地域の皆様が学校行事等に参加するとともに児童生徒等が地域行事等に参加することにより、地域の活性化にも繋がるものと考えております。このことから、教職員や地域の皆様がその制度や内容などについて理解を深めることが必要であることから、次期計画に登載していきたいと考えております。

目標は、地域総がかりの教育の推進していくこと自体が目標となりますことから設定は馴染まないと考えております。

成果指標は、全国学力・学習状況調査において、「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の方が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか」という質問に対して、「よく参加してくれる」、「参加してくれる」と答えた学校の割合を増やしていくこととしたいと考えております。

◎万代部会長

地域総がかりの教育の推進については、コミュニティスクールについて、教職員や地域がその制度や内容などについて理解を深めることが必要だということや、そのための情報発信を進めたいといった、いわゆるコミュニティスクールを軸とした地域総がかりの教育を推進したいということと次期計画に登載したいという説明でした。

目標設定については、設定することが馴染まないという説明でした。また、成果指標については、保護者や地域の方が学校における教育活動や様々な活動に「よく参加してくれる」、「参加してくれる」と答えた学校の割合を増やしていくこと、つまり毎年度増えていくということと成果指標として設定したいという説明でした。

ただいまの説明に対して、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

◎万代部会長

全国的にコミュニティスクールというものはいつごろから導入されているのでしょうか。

◎櫻井参与

国の方で指導が始まったのは平成16年からです。今現在、北海道の導入率は20%弱となっており、全国の平均より高い数字となっております。伊達市内の学校において導入率は100%ですので、数値目標は達成している状況です。今後は質を高めていく形になるかと思えます。

◎万代部会長

ほかにご意見・ご質問はありますか。

◎小倉委員

議題説明資料にありますコミュニティスクールの説明の中でコミュニティスクールの役割が記載されていますが、「教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見が述べることができる」とありますが、教員評価というようなことなのでしょうか。

◎櫻井参与

人事評価というよりも地域の子どものための教育にふさわしい環境づくりという視点で考えていただきたいのですが、例えば、伊達中学校の野球部が強いとします。その野球部の指導をしている教員の異動が考えられる時期が近づいてきたとして、その際、学校運営協議会の中で「野球部の指導ができる教員を任用したほうがいいですね」というような意見を述べるができるということ。「あの教員がだめだから異動させてください」とい

うようなマイナスな意見ではなく、子どもたちの教育環境充実のためのものとして考えていただきたい。

◎万代部会長

それでは、地域総がかりの教育推進については、ただいまの説明のとおり、提言において整理をしていただくということをお願いいたします。

次に、議題「(2) ふるさと創生教育の推進」について、事務局から説明をお願いいたします。

◎指導室吉田主査

ふるさと創生教育の推進につきましては、地域の専門的な知識・技能を有する人材や副読本等を活用することにより、伊達市の歴史的風土、伝統、文化等について学んでいるところですが、今後も継続してふるさと創生教育の推進していくことを次期計画に記載していきたいと考えております。

目標は、ふるさと創生教育の推進していくこと自体が目標となりますことから設定することは馴染まないと考えております。

成果指標は、地域の人材を外部講師として活用した授業は中学校においては、すべての学校で行っているが、小学校においては70%となっているので、これを100%にすることとしたいと考えております。

◎万代部会長

ふるさと創生教育については、地域人材や副読本を活用して、伊達市の歴史風土や伝統をはじめとしたふるさと創生教育を継続していくことを次期計画に登載したいという説明でした。目標設定については設定することが馴染まないという説明でした。また、成果指標については、地域人材を活用した授業をすべての学校で実施したいという説明でした。

ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はありますか。

◎竹村委員

具体例があれば教えてもらいたい。自分の会社でも過去に「砂糖をつくるまで」というような授業を学校でやったことがあるが、そういうことも含まれるのか。

◎三浦学校教育課長

大きなところでいえば、稲刈り体験が挙げられ、その他にも地域の方がその地域の子どもたちに英語を教えるというようなことが挙げられる。もちろん、「砂糖をつくるまで」といった授業も含まれます。

その中で、現在「伊達学」という授業ができないか検討が始まっています、伊達の歴史、文化、産業のすべてをある程度網羅したもので、将来的には小学校から高校まで一貫したものがないかと考えています。その中身や具体的な取り組みについては今後検討を深めていきたいと考えております。

◎万代部会長

先ほどの説明の中で伊達市の歴史、風土、伝統をはじめとしたふるさと創生教育とありましたが、その中に伊達市の産業について学ぶことも含むということでしょうか。また、それはインターン的なキャリア教育とふるさと創生教育を両方兼ねた取り組みという理解でよろしいでしょうか。

◎櫻井参与

はい、学年の発達段階で「伊達学」という大きな枠の中で段階的に進めキャリア教育についても充実させていきたいと考えております。

◎山崎委員

高校の立場から、ふるさと創生教育はキャリア教育の一環としてはとても重要だと思うが、将来的にはその地域人間として力を発揮していく人材であるため、主権者教育もとても重要だと思う。ぜひ、この観点も含め検討していただきたい。今回の「伊達学」については、来年度から導入したいと考えていますので、高校として協力をしますので、ぜひ研究していただきたいと思います。

◎万代部会長

ほかにご意見・ご感想はありますか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、ただいま出たご意見を踏まえながら提言の整理をお願いいたします。

次に、議題「(3) 異校種間の連携・接続の推進」について、事務局から説明してください。

◎指導室吉田主査

異校種間の連携・接続の推進につきましては、幼稚園、保育所等から小学校に上がるに際して、特に注意が必要であるお子様に関して、伊達市特別支援教育推進委員会等において保護者の同意のもと協議を行うなど連携を図ってまいりたいと考えております。

また、小学校から中学校への引継ぎや中学校から高校への接続に関しましても中1ギャップ等を考慮し、円滑な接続の推進について次期計画に登載していきたいと考えております。

目標は、教科に関する目標設定など教育課程に関する交流を行っている学校について継続して交流し、内容を充実していくこととしたいと考えています。成果指標は、近隣等の学校と教員同士の交流を行っている学校の割合を100%にすることとしたい。

◎万代部会長

異校種間の連携・接続の推進については、中1ギャップ等を考慮し、円滑な接続の取り組みについて、次期計画に登載したいという説明でした。

また、目標としては、教科に関する目標設定など教育課程に関する交流を継続して行うことを目標設定しながら、近隣等の学校と教員同士の交流を行っている学校の割合を小中とも100%とすることを成果指標にしたいという説明でした。

ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はありますか。

◎池田委員

他校種等との教員同士の交流は実際現場ではどのように行われているのでしょうか。また、現在の割合が低いようですが、こういった要因があるのでしょうか。

◎櫻井参与

交流では勉強面・生活面でどういったこと指導していたのかを知ってもらうことからはじめてもらい、小中の9年間でどのような子に育てていくのかというようなことを目標として取り組んでもらっているところでもあります。要因については、一般の教員、特に中学校の教員が部活動などで時間をつくれないということが挙げられます。そのため、教育委員会として時間を決めさせてもらい、できるだけ交流ができるよう協力し、成果目標である割合を100%に近づけていきたいと考えています。

◎万代部会長

ほかにご意見・ご感想はありますか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、「(4) 幼児教育の充実」について、事務局から説明してください。

◎富士学校教育係長

1歳から小学校に入る前の幼児期については、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる大切な時期であることから、この時期にいろいろな経験をするのはとても大切です。この時期については、急速に成長する時期でもあり、個性が出てくる時期でもあることから、一人ひとりの特性に応じた幼児教育が重要となっております。幼児教育は、生活学習や発見学習などを取り入れ社会性を学んでいくために、直接的や具体的な体験を通して基礎を学んでゆきます。

幼児教育で学んだことが、義務教育でも十分に発揮できるように取り組む必要があります。そのため、円滑な接続が出来るよう、幼稚園、保育所、小学校の三者が連携できることはもちろんですが、中学校も交えた「(仮称) 幼・保・小・中連携会議」を開催し、四者が連携することで、子どもや保護者の不安解消や負担軽減を目指します。

目標設定は、計画最終年度において、市内の年長児に対して、小学校へ年3回の交流学习を行います。

成果指標については、すべての幼稚園や保育所が小学校との交流学习を実施することを指標にしたいと考えております。

◎万代部会長

幼児教育の充実については、幼稚園、保育所と小学校及び中学校との交流促進を図ることが、来年度から施行される指導要領でも求められていること、そのため、これまで以上に幼・保・小・中の交流を可能な限り実施したいということでした。

また、目標については、市内の年長児が小学校との交流を年3回体験することを目標として設定したい。成果指標については、すべての幼稚園や保育所が小学校との交流事業を行っているかどうかを成果指標として設定したいという説明でした。

ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はありますか。

◎小畑委員

「(仮称) 幼・保・小・中連携会議」については、いつ開催予定なのでしょうか。

◎三浦学校教育課長

早ければ早いほどよいと思いますので、できるだけ早く開催し、形をつくっていきたいと思います。

◎万代部会長

私立の幼稚園との連携という形になるとは思いますが、過去に連携を行った例はあるのでしょうか。

◎三浦学校教育課長

具体的な例は特にありません。まずは連携を行える場を作り、その後、中身を充実させていきたいと思います。

◎竹村委員

この場で話す内容ではないかと思うが、最近、公園でのルールが厳しく、子どもたちが公園で遊んでいるのを見かけなくなったと思う。昔は公園などで小さい子が大きい子にいろいろおしえてもらう場がたくさんあった。昔のように子どもたちを公園で自由に遊ばせてやることはできないかと思う。

◎小倉委員

私立幼稚園の経営者の立場から、竹村委員のご意見はもっともだと思うが、安全意識が高まり、昔のようだというのは難しくなっています。そのため、幼稚園での幼児教育が重要となっています。今回の交流学习も幼児教育の一環として仕掛けており、現在の社会に配慮した安全性の高い教育を行っているところであります。

◎万代部会長

今回の説明資料の「幼児教育の重要性」の中で「生活体験やアクティブラーニングを通して学ぶという幼児教育の基本を踏まえ、子どもの発達に必要な経験ができるよう、一人ひとりの特性に応じた、適切な援助が必要となります。」とありますが、竹村委員のご意見はここに関係するかと思えます。今回の目標・成果指標はそれに触れられていないように思います。そのため、現状を踏まえて、そのような機会が充実させられるよう目標の設定を検討していただきたい。これは提言にまとめることはできるのでしょうか。

◎三浦学校教育課長

提言の形の話になりますが、部会の中では目標や成果指標についても話し合わせていただいておりますが、目標や成果指標は提言で触れないほうがいいかなと考えているところであります。もちろん、計画を設定する際には目標や成果指標を洗いなおし、いただいたご意見を参考に検証を行っていきたいと思えます。

◎万代部会長

ほかにご意見・ご感想はありますか。

[意見なし]

◎万代部会長

次に、「(5) 教職員の資質・能力の向上」について、事務局から説明してください。

◎富士学校教育係長

近年、学校を取り巻く環境は急激に変化しております。児童生徒への教育や指導はもちろん、保護者や地域との調整などさまざまです。地域から、信頼され安心される学校作りのために、校長や教頭のリーダーシップが重要となります。

また、団塊の世代が退職し、ベテラン教職員が若手教職員に指導する機会が減り、中堅教職員の期間が短いため、ミドルリーダーの育成も課題となっており、効率的、効果的な校内研修の実施に支障をきたす場合が想定されます。そのため、管理職に対する研修会や伊達市教育実践交流・研究会など幅広い年齢層が集まる研修会を継続的に開催します。

また、さまざまな疾患を持つ子どもが増えてきております。特に近年はアレルギー疾患をもつ子が急激に増えており、発症すると死に至ることもあるため、ショック症状を和らげるためのエピペン注射を行うこともあるため、年に1回養護教諭と管理職もしくは一度も講習を受けていない教職員を対象に、胆振西部医師会の協力をいただき、研修会を開催しております。今後についても、社会情勢の変化に応じて、研修内容を充実させていきたいと考えております。

目標設定については、伊達市教育実践交流・研修会への参加率が計画最終年度において80%となること。

伊達市教育実践交流・研修会への参加した割合を前年度より上回ることを成果指標として設定したいと考えております。

◎万代部会長

教職員の資質・能力の向上については、数年前の「団塊の世代」の定年退職によって、

教職員の若返りがある程度進んでいるものの、学校によっては年齢バランスが取れていない学校もあり、ベテランから若手に対する継承がうまく機能していないケースもあるということ。

このようなことを背景に、教職員の資質・能力の向上には、様々な世代が参加する研修機会の確保に努める取り組みを確保することと、研修内容についても充実させることが必要という説明でした。

また、成果指標は伊達市教育実践交流・研修会への参加した割合を前年度より上回ることとし、目標設定は、計画最終年度に研修会への参加率を80%にしたいということでした。

ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はありますか。

◎小畑委員

目標を80%に設定した根拠は为什么呢。

◎三浦学校教育課長

決定的な根拠となるような理由ではないですが、研修は長期休暇期間に設定することが見込まれ、その期間は中体連などと重なり、研修に出席できないことが予想されるため100%ではなく80%を設定させていただきました。

◎万代部会長

伊達市の教職員においても急激な若年化は進んでいるのでしょうか。

◎三浦学校教育課長

伊達中学校や光陵中学校のような一定の規模のある学校については急激な若年化は見られませんが、小規模校では年齢だけでなく、男女のバランスもいびつになっている学校もある状態です。

◎万代部会長

他に、ご質問やご意見はございませんか。

[意見なし]

◎万代部会長

最後に「(6) その他」でございしますが、本日をもって事務局側が用意していた学校教育部会としての議題については、すべて検討を終了いたしました。本日の議題、あるいは全体を振り返ってでも構いませんので、部会員の皆様からなにかございますか。

◎竹村委員

伊達市の図書館は他の市町村に比べ小さく、「蔵書数が少ないこと」、「環境がよくないこと」や「営業時間が短いこと」など市民として不満のある図書館となっているため、立派な図書館を建てて、不満を解消すべきではないかと思えます。

◎三浦学校教育課長

図書館については社会教育部会の範疇となっており、社会教育部会でも同じようなご意見があったようです。また、昨年、「図書館あり方検討委員会」を設置し、市民の方からご意見をいただき、今年2月に教育長に提言書を提出したところであります。問題点の解消については今後、さらに議論を深め進めていくことになると思えます。

◎万代部会長

ほかに、ご質問やご意見はございませんか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、最後に事務局から事務連絡をお願いいたします。

◎上山企画総務係長

次回の日程については11月16日（木）18時30分から、場所は市民活動センター多目的室2・3で行います。

次回内容については、本日で審議していただく議案がすべて終了いたしましたので、学校教育部会の提言書の案について、みなさまで審議していただきたいと考えております。

今後のスケジュールですが、なるべく早い段階で社会教育部会にて審議された内容と学校教育部会にて審議された内容を取りまとめ、全体会議にて協議を行っていきたいと考えております。最終的な全体会議は1月24日（水）に開催予定で調整を行っていきたいと思います。

◎万代部会長

ただいまの情報提供と事務連絡について部会員のみなさまから何かございますか。

[意見なし]

◎万代部会長

それでは、これもちまして第4回学校教育部会を閉会いたします。

閉 会 （19時53分）